

医学教育の最新理論を、教育実践の現場に！

医学教育の理論と実践

A Practical Guide For Medical Teachers (原著第2版)

編著：John A. Dent/Ronald M. Harden

監訳：鈴木康之/錦織 宏

編集：相野田紀子/杉本なおみ/足立拓也/吉村仁志

498頁，定価 6,510円(本体 6,200円，税 310円)

出版社：篠原出版新社 2010年発刊

カリキュラム開発から教育ツールや教員養成に至るまで、医学教育界をリードする世界的権威たちが寄稿して、卒前教育だけではなく卒後教育や生涯教育にも役に立つ、医学教育者すべてのための実践的教科書が出版された。

本書は英国 Dundee 大学の John A Dent 博士と Ronald M Harden 博士が中心となって、世界の著名な医学教育者が執筆した、非常に優れた医学教育学のテキストである。それゆえ医学教育の国際標準を理解するうえでも格好の教材になっている。従って、本書は医師を対象に作成されているが、医師以外の看護師や臨床検査技師、薬剤師などの医療職の教育分野でも最も参考になる教育学のテキストになるだろうと考え、紹介することにした。

本書は以下の7部で構成されている。第1部：カリキュラムの開発、第2部：学習環境、第3部：教育方略、第4部：教育ツールと支援、第5部：カリキュラムのテーマ、第6部：評価、第7部：教員と学生。そして、この「臨床検査学教育」の本号で、臨床検査技師のための新しい教育方法として「PBL（問題基盤型学習）」が日本で初めて紹介されたが、この教育方略も第3部の中で紹介されている。同様に本号の「総説」と「報告」で紹介された「IPE（多職種連携教育）」/「IPW（Interprofessional Work）」も第3部の中で紹介されている。

このような新しい医学教育を必要とする社会変化として、日本とは若干状況は異なるが、編者らは、①患者の抱く期待の変化に伴い、根拠に基づく医療の実践と説明責任が求められるようになってきたこと、②医療制度の変化に伴い、医療における多職種のアプローチが求められるようになり、医師以外の医療職の役割が拡大しつつあること、③医学知識の指数関数的増加に伴い、カリキュラム改革が求められるようになってきたこと、④医師の勤務形態と労働負担の変化に伴い、患者の受診や指導医の教育への専念及び若手医師の指導を受ける機会に支障が生じてきていること、そして⑤多種多様な学生の要求の変化に伴い、授業の評価やモニタリングは今や必須の業務になってきていることを挙げている。そして、これらの課題に対処すべく、新しい教育方略やカリキュラムモデルを紹介し、様々な新しい学習ツールや補助手段、効果的な評価方法や教員養成（FD）のやり方の導入を勧めている。

いずれにしても、医学教育にとって大切な項目をすべて網羅している本書は、現代の医学・医療に求められる教育原理を理解し、様々な教育の現場に適したカリキュラムを開発するための実践的な手引書として非常に価値が高い。新しい時代に突入した「臨床検査学教育」の担い手である私たちにとって、大切な指南書になりうると思われる貴重なテキストである。

(岩谷良則：大阪大学 大学院医学系研究科 保健学専攻 生体情報科学講座 iwatani@sahs.med.osaka-u.ac.jp)